

2026年3月2日

報道関係者 各位

群馬大学医学部附属病院、患者のスマホで電子カルテを閲覧できるサービスを開始  
～患者参加型医療の理念をデジタル技術で推進～

国立大学法人 群馬大学医学部附属病院（所在地：群馬県前橋市、病院長：齋藤 繁、以下「群馬大学病院」）と、PSP株式会社（本社：東京都港区、代表取締役：依田 佳久、以下「PSP」）は、患者さんが自身のスマートフォンで群馬大学病院の電子カルテ情報を閲覧できるカルテ共有サービスを、2026年3月2日（月）より開始いたしました。

本サービスは、PSPが提供するPHR（パーソナルヘルスレコード）アプリ「NOBORI」を基盤として、両者が共同開発したものです。従来の検査結果や画像に加え、医師の診療録、看護記録、薬剤・リハビリ・栄養等の部門記録まで、医療チームが記録するほぼすべての情報を、患者さんのスマートフォンで一体的に閲覧できるようにしたものです。

本取り組みを通じて、「患者参加型医療」をさらに推進し、日本全体の医療の質と安全性の向上に貢献することを目指します。

## ■ 本件のポイント

- 群馬大学病院は、2019年より院内端末での診療記録の閲覧（カルテ共有）を開始。患者さんも医療チームの一員であるという理念のもと、透明性の高い医療を推進してきました。
- 群馬大学病院とPSPはNOBORIのPHR機能を拡張し、検査値や画像だけでなく、医師の診療録・看護記録・部門記録まで、群馬大学病院のほぼすべての診療記録を、患者さん自身のスマートフォンでリアルタイムに共有できる機能を共同開発しました。
- 患者さんが自身の診療情報をいつでも確認できる環境は、治療への理解と納得を深め、医療の質と安全性を高めるとともに、社会全体の医療の透明性向上にも寄与します。

## ■ 背景：群馬大学病院が目指す「患者参加型医療」の歩み

群馬大学病院は、過去の医療事故を教訓に、医療の透明性を高め、患者さんと医療者が信頼関係のもとで協働する「患者参加型医療」を推進してきました。これは、患者さんが単に医療を受ける立場にとどまらず、医療チームの一員として自らの治療プロセスに主体的に参加する医療のあり方です。その中核的な取り組みとして、2019年4月より院内端末での診療記録の閲覧（カルテ共有）を開始しました。利用した患者さんの90%以上が「病気への理解が深まった」と回答し、「信頼関係を高めるのに有用」と評価するなど、大きな成果を上げています。

そして今回、この取り組みをさらに発展させ、患者さんが「いつでも・どこでも」自身の診療記録を確認できる環境を整備しました。本サービスにより、医療者と患者さんの情報格差を縮小し、患者さんの視点に立った医療を一層推進します。

## ■ 本サービスの特長

本サービスは、PSP 社の PHR アプリ「NOBORI」を基盤とし、群馬大学病院の電子カルテ情報を、患者視点で分かりやすく、かつ安全に提供するための拡張機能を共同開発したものです。医師、看護師、薬剤師に加え、リハビリ・放射線・検査・栄養などの多職種による記録を時系列で確認できます。これにより、患者さんは医療チームの一員として自身の診療経過をリアルタイムに把握でき、治療への主体的な参加が促されます。

### 【共有される情報】

- **履歴**：通院日や入院日の履歴
- **画像**：CT、MRI などの画像
- **検査**：血液検査などの結果
- **お薬**：処方・注射
- **カルテ**：医師の診療録、各部門の記録



## ■ 期待される効果

本サービスにより、患者さんが自身の治療プロセスを深く理解し、医療チームの一員として納得して治療に取り組む環境が整います。

- **診察の質の向上**：患者さんが診察前に診療情報を振り返ることで、疑問点や伝えたいことが明確になり、限られた時間でも密度の高い対話が可能になります。
- **ご家族との情報共有**：離れて暮らすご家族とも治療経過を詳細に共有できます。治療内容が「見える」ことで、不安軽減や療養支援につながります。
- **医療安全と信頼**：患者さんと医療者が情報を共有し、相互に確認し合うことで、より安全で質の高い医療の実現につながります。

### 【広報に関する問合せ先】

群馬大学昭和地区事務部総務課広報・保健学庶務係

TEL：027-220-7895 FAX：027-220-7020

E-MAIL：m-koho@ml.gunma-u.ac.jp